



グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 クマに悩まされたホタル調査

02 オオルリの子育て

Vol.315
2023/8/01



鬼丸和幸 《いよいよ麦刈り》

Photo 今月の1枚

7月に入り、天候不順な日も続きましたが、ようやく夏らしい陽気となりました。郊外に広がる麦畑では、収穫前にした麦の穂色が、だんだんクリーム色から濃い赤味を帯びた褐色へと変わっていき、夕暮れ時など、麦畑全体が夕陽に照らされて赤く染まり、とても美しい光景が広がります。8月に入れば、麦刈りも終わり、早くも秋の風を感じる季節へと、様変わりしていきます。(鬼丸和幸)



01 Green Column グリーンコラム

クマに悩まされた ホタル調査

写真・文／鬼丸和幸

7月も終わりとなり、早くも少しずつですが、秋の気配を感じてしまう季節となりました。この時分、仕事を終わると、そのまま調査・撮影機材を車に積んで、ホタル調査に出かけ、深夜に帰宅するという生活パターンを続けています。

日並地区に残されている湿地は、野生のヘイケボタルが、現在も自然のままの姿で見られる貴重な場所です。森林の樹間や小沼の周辺を飛び交う光景は、見事の一言に尽き、もう20年余りも通い続けてきました。今年の6月下旬、この生息地周辺で、子グマの姿が確認されて、緊張を強いられました。もともと春先には、生息地内を通る林道上で、ヒグマのフンが見つかることがあり、移動の際に利用していることが、わかってはいたのですが、子グマがいたとなれば、近くに親グマもいたのでは…と不安になります。子グマを

連れた母グマは、子グマを守るために、時に必要に迫られて攻撃的になるからです。そのため、ホタルを調査・撮影している際は、これまで以上にラジオやクマ鈴を鳴らしたり、複数名で連れ立って、出かけるように心掛けています。幸い、これまでに、ヒグマに遭遇(そうぐう)するような事態からは、免(まぬが)れています。

北海道で、野生のヘイケボタルが生息しているような環境は、ヒグマも利用していることが多く、夜は暗くて視界も利かないことから、闇(やみ)の中でホタルの姿を観察する際は、緊張させられるのが現実です。しかし、そのような状況で目にしているためでしょうか、ホタルの光は、どこか神秘的で崇高(すうこう)なものに感じてしまいます。

オオルリの 子育て

動画・文／町田善康

博物館のすぐ近くにある建物の雨どいに、オオルリが巣を作りました。普通、オオルリは谷沿いの森にある岩場や崖のくぼみに巣を作ります。確かに、今回巣を作った場所は、オオルリが営巣する場所に近い環境かもしれませんが、人が良く通る場所なので、うまく繁殖できるのか心配でした。

少し観察すると、親鳥は常時巣にいるわけではなく、餌をとりに行っている間は、しばらく巣にいないことが分かりました。そこで、親鳥のスキをみて、ネットワークカメラを設置することにしました。このネットワークカメラは、インターネットに接続できるカメラで、防犯用やペットの見守りなどに使われています。Wifiの電波が飛んでいれば、遠隔地からでもスマートフォンやパソコンからも画像を見ることが出来ます。



設置はうまくいき、子育ての様子を事務所の中からも観察できるようになりました。その上、親が帰ってくるとお知らせが来るので、とても便利。カメラをつける前なら、親鳥が戻ってくるまで1時間でも2時間でも、望遠鏡をのぞいていなければならなかったことに比べると画期的です。

そうこうしているうちに、5羽の雛(ひな)はすくすくと大きくなり、あっという間に巣立っていきました。ホッとすると同時に、巣立ちの一部始終も記録することができました。せっかくなので、子育ての様子は、特別展「カメラは見た！動物たちの素顔」特設SNSサイトにアップしました。ぜひご覧ください。

Exhibition 展示

特別展「カメラは見た！動物たちの素顔」
～10月22日（日）

ロビー展「すごい標本！すごい資料！」
7月1日（土）～10月9日（月・祝）

Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル

7/1（土）～8/31（木）

美幌博物館・無料

申込み／申込み不要

プチ工房「ジェルキャンドル」

8/4（金）、5（土）10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館1階 講座室・500円

講師／早田真莉子（美幌博物館）

対象／どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

申込み／申込み不要

プチ工房「型染めハガキ」

9/1（金）、2（土）10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館1階 講座室・300円

講師／早田真莉子（美幌博物館）

対象／どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

申込み／申込み不要



Tweet つぶやき

香川県に行きました。平坦な海岸部から少し内陸に入ると急峻な山岳地帯になります。川の水は透明度が高く、見たこともない魚たちが泳ぎます。北海道とは全く違った自然の成り立ちを肌で感じ、大きな刺激を受けました。また行きたい！（町田善康）



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】八重柏誠

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美倉 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

